
恋詩

北山アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋詩

【Nコード】

N0826D

【作者名】

北山アキ

【あらすじ】

命とは…こんなにも軽いもの…？…違う。…優真…。

第1話

200X年4月。私はある公立高校に合格した。今日はその入学式。

「亜紀。遅れるよ。」

「はいお母さん。」

まだ新しい制服に着替え食卓につく。

「今日はいよいよ入学式ね」

「…うん。」

中3の時まで不登校だった私は、やっとの思いで公立高校に合格した。ほんとは行きたくなかったけど…。

そろそろ時間。

「行つてきます。」

「いつてらっしゃい。」

みんな友達と一緒にに行っているのか複数人数だ。しかし友達のいない私。一人で学校へと向かった。

私が行く高校へは家から30分。各学年4クラスある。私は1年2組だった。

教室に入ると見慣れない人達が集まっていた。席につく。しかし誰から話しかけていいのかわからない。ふと隣を見た。すると一人の男子がいた。誰とも喋らず下を向いている。私はその男子に近寄った。

「おはよう。はじめまして。宮野亜紀です。よろしく。」

その男子は静かに

「……………花崎優真です…よろしく……………」

「あの…中学どこだったの？私は西中だよ。」

「……………東中……………」

「そ…そう。」

少し話辛い。席に戻る。

「はじめまして。」

誰かが私に声を掛けた。

「ああ…はじめまして。」

「私東中から来た音原琴音。あの花崎優真ってやつ暗いじゃろお。近付かない方がいいよ?」

「えっ…?」

嫌われてるんだ…花崎優真って子。まあ…私も似たような性格だからすぐ嫌われるだろうなあ…。と私は予想していた。

が、現実少し違った。私に友達はやっぱ出来なかった。しかしいじめに会わなかった。しかし…

「おい!花崎!消えろや!」

そう…花崎くんがいじめられる様になってしまった。みんなで寄ってたかって消えろの合唱、ひどい…。

花崎くんの目から涙が溢れる。が、いじめる側はもつとはやし立てる。

「弱虫!精神鍛えろや!」

…と…。

次の時間は体育だった。みんなが花崎くんから離れ、教室には私と花崎くんの2人きりになった。

「……………行かないの…?」

「えっ…?」

花崎くんが涙を溜めた目で私を見ながら言った。

「…うん。私保健室行くから。…花崎くんも…一緒に行く?」

「……………うん…。」

私達2人は一緒に保健室へと向かって歩いていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0826d/>

恋詩

2010年12月15日02時42分発行